

鹿児島大学 障害学生支援センター センターニュース



2018.3.15発行 VOL.3

発行：障害学生支援センター

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30

共通教育棟1号館2F 修学支援室

TEL&FAX 099-285-3287

E-mail : learning-support@gm.kagoshima-u.ac.jp

URL <https://www.kagoshima-u.ac.jp/syogaku/>

はじめに

障害学生支援センターは、平成26年9月から常任教員として今村先生に来ていただき、早くも3年が過ぎました。この間、まず共通教育棟1号館2階に障害学生支援センター（修学支援室）を設置し、その後は保健管理センターと連携して学生カウンセリングを始めました。そして、障害学生の配慮申請のための申請書の作成と修学支援会議の開催、次に障害学生支援委員を各部局に推薦いただき全学体制の障害学生支援委員会を設置することがで

きました。この体制のもと、障害のある高校生の入試事前協議、合格後の入学前協議と繋げていくことができるようになりました。また障害学生支援センターのパンフレットと学内のバリアフリーマップを作成し、「教職員のための学生理解と修学支援ガイドブック2016」を発刊、さらに障害学生理解のためのシンポジウムも外部講師を招き2回開催することができました。わずか3年ちょっとでここまでできたことは、障害学生支援センターのスタッフ、学生生活課および保健管理センターの教職員の方々の惜しみないお力添えのおかげであり、感謝しかありません。また学生さんにも大いに手助けしていただきました。初めての試みとしてシンポジウムの時にPCノートテイクしてもらい、講習を受けに九州大学にも行ってもらいました。来年度はもっと活躍の場を提供し、学生支援力向上を目指したいと思っております。

さて、2020年はオリンピックと共にパラリンピックが開催されます。障害のある選手たちのひたむきな競技に対する姿勢は、我々に勇気と感動を与えるものであり、また障害の有無にかかわらず誰もが支えあうことができる共生の社会の実現を感じさせてくれます。この2020年に向けてユニバーサルデザイン2020行動計画が動き出し、「心のバリアフリー」に取り組んでいることをご存知でしょうか。「心のバリアフリー」とは、さまざまな心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションを取り支え合うことです。互いに成長していく関係を築けていけるようになることを願ってやみません。

平成30年3月 障害学生支援センター長 前田雅人

「鹿児島大学障がい学生支援シンポジウム2017」開催報告

日時 平成29年9月1日（金）14:00～16:00

開催場所 鹿児島大学学習交流プラザ2F 学習交流ホール

総合司会 前田 雅人（本学副学長 法文教育学域教育学系教授 障害学生支援センター長）

第一部：基調講演「九州大学における障がい学生支援－発達障害のある学生を中心に－」

講師 面高 有作氏（九州大学 基幹教育院 キャンパスライフ・健康支援センター コミュニケーション・バリアフリー支援室特任助教）

第二部：トークセッション「大学生の支援について」

司会：今村 智佳子（本学障害学生支援センター特任助教）

助言：面高 有作氏

ゲスト①：高橋 玄一郎氏（本学総合科学域総合教育学系総合教育機構共通教育センター 教授）

ゲスト②：永田 純子氏（本学保健管理センター カウンセラー）

情報保障 本学学生によるPCテイク 線音源スピーカー

第一部の基調講演「九州大学における障がい学生支援－発達障害のある学生を中心に－」において、講師の九州大学基幹教育院キャンパスライフ・健康支援センターコミュニケーション・バリアフリー支援室面高有作特任助教から、障害のある学生の修学支援に関する状況や合理的配慮決定の過程についての説明、九州大学における学生支援の現状と発達障害のある学生に対する支援の実践例が紹介されました。合理的配慮決定過程では建設的対話による同意形成の過程が重要あること、合理的配慮とは障害を理由とした個別的な措置であることが説明されました。

第二部のトークセッション「大学生の支援について」では、本学総合教育機構共通教育センター高橋玄一郎教授から、「発達障害のある学生への英語科教育での支援実践」、本学保健管理センター永田純子カウンセラーから「保健管理センターにおける発達障害学生支援と連携」について話題提供がありました。実際の事例に基づく話題提供では、不適切と考えられる態度の背景にあるつまずきの理解と本人との対話の重要性と学生の変化からみた教育的効果について理解することができました。その後、第一部講師の面高特任助教を交え、参加者との質疑応答が行われました。学内のみならず、県内他大学関係者からも熱心な質問があり、有意義なシンポジウムとなりました。

また、今回のシンポジウムでは有志学生によるPCテイクを実施しました。4名の学生がシンポジウムに向けてPCテイクの研修を行い、入力スキル練習や役割分担を行いました。当日のPCテイクでは今後の課題も明らかとなりましたが、「文字情報があることで、聴きながら確認できとても良かった」と好評をいただきました。

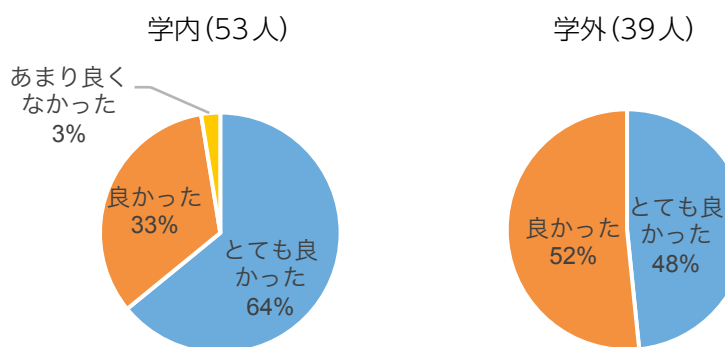
* PCテイクとは、講演者の発言をPC入力により文字として表示し、聴覚障害のある方への情報保障の手段です。文字情報にすることで、聴覚障害の方のみならず、聞き漏らしを確認できる等の有用性もあります。



参加人数(人)

| | 教員 | 専門職 | 事務 | 院生 | 合計 |
|----|----|-----|----|----|----|
| 学内 | 16 | 7 | 27 | 3 | 53 |
| 学外 | 8 | 15 | 16 | | 39 |
| 合計 | 24 | 22 | 43 | 3 | 92 |

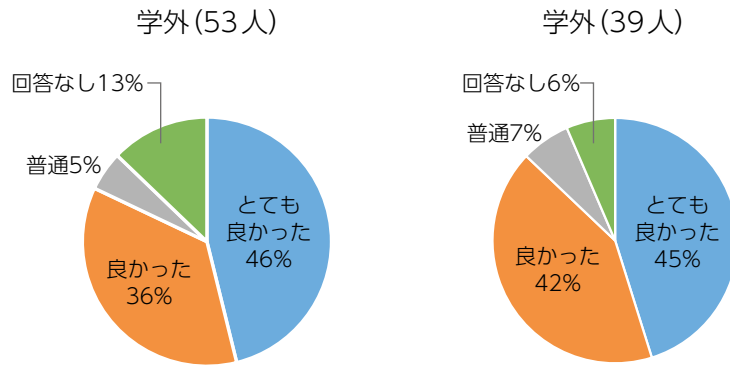
第1部 基調講演について



感想(抜粋)

- ・九大での取り組み、障害学生への対応の大枠が理解できた。対応すべき内容の考え方、学生育成の話が大変参考になった。
- ・知らないことが多くてたくさん学べた。(マイクなどの設備) また、学生生活 (アルバイトやインターンシップ) の支援なども考えていなかったので今後、考えていきたい。
- ・障害者学生に対して、様々なサポートをしていくことで学生の自立、生きる意欲につながるような試みはそれなりに評価出来る。障害学生だけでなく周りのサポートする人たちの意識改革にも期待したい。

第2部 トークセッションについて



感想(抜粋)

- ・学内事例の把握と今、我々が考えなければならない点について知ることが出来た。
- ・学生の状況について周りがしっかりキャッチすることの重要性について勉強になった。
- ・実際の例を交えながら、教育・専門の部分から話を聞くことが出来て、勉強になった。
- ・身近に支援を必要としている学生がいるということを考えさせられた。改めて学生対応する際に、支援を必要としている学生であるかどうか気付けるように意識して対応しようと思った。

PC テーカ－養成講座

九州地区国立大学法人障害者支援に関する大学間連携プログラム

平成29年度パソコンノートテイク基礎研修

平成29年9月14日(木)九州大学箱崎キャンパス

講義1：大学における障害学生支援概要 講師：九州大学基幹教育院 田中真理教授

講義2：パソコン文字通訳基礎 講師：福岡教育大学附属特別支援教育センター 太田富雄教授

障害学生支援に関わる学生の養成を目的としたプログラムに本学より3名の学生が参加しました。障害学生支援の基礎やパソコンノートテイクの基礎等を学びました。福岡教育大学での入学式や卒業式でのパソコンノートテイクをスライド表示する情報保障や歌を手話で表現するパフォーマンスの映像を見て支援活動にあり方に非常に刺激をうける良い機会となりました。

感想(研修の感想より抜粋)

教育学部3年：大学における障害学生支援の際に学生サポーターに求められることや合理的配慮の課題などについて学ぶことができた。他大学での取り組みをしり、自分が行っている支援の反省にもなり興味深かった。

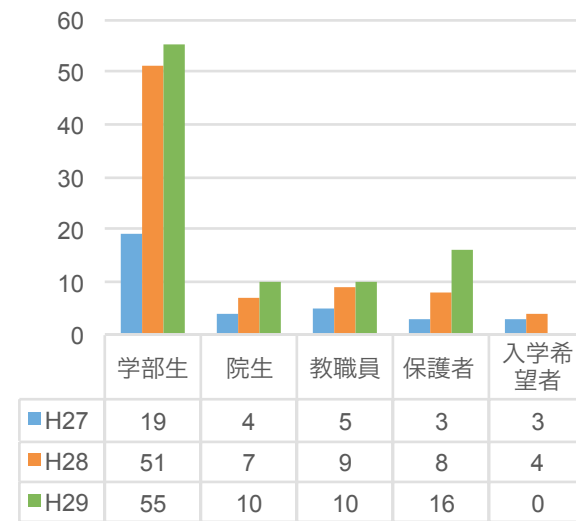
法文学部3年：障害学生支援の基本的な知識を学ぶことができて良かった。

臨床心理学研究科2年：他大学の障害者支援の内容や現状について学んだことで、改めて他大学や他施設等の情報交換の機会を得ることの大切さについて感じる事ができた。

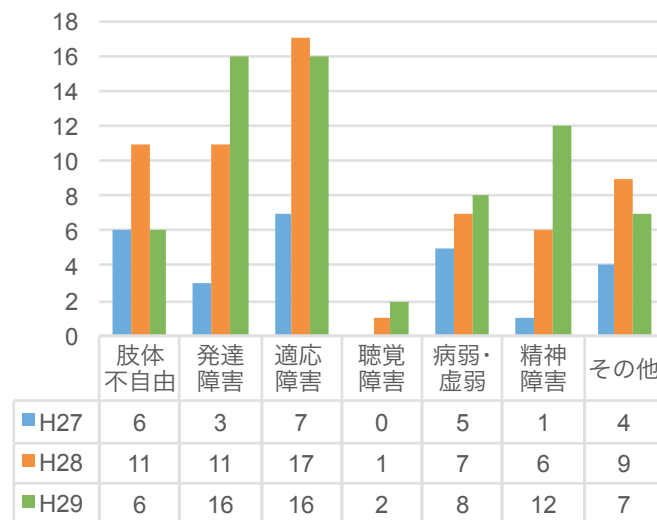
相談件数・来談者数

H27=1月～12月、H28=1月～12月、H29=1月～12月

人 来談者種別人数

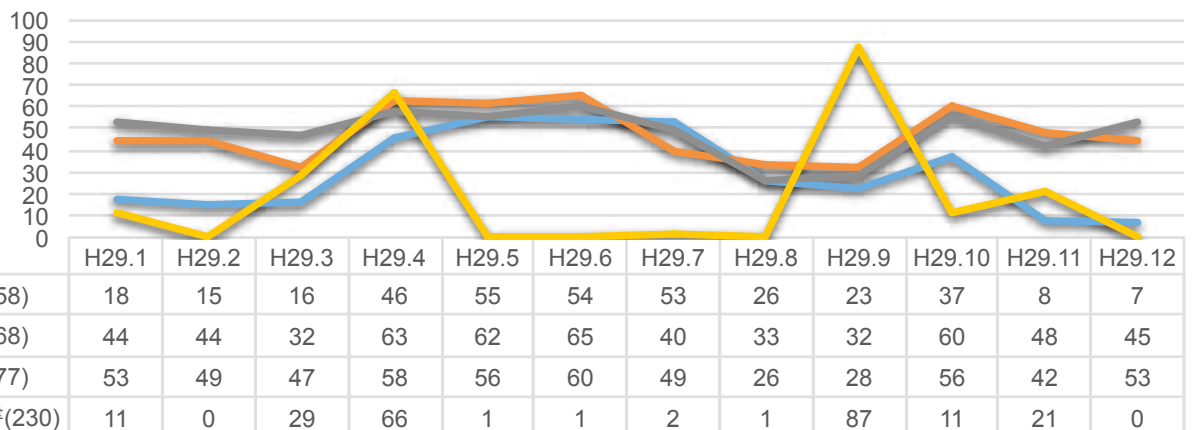


人 障害種別人数



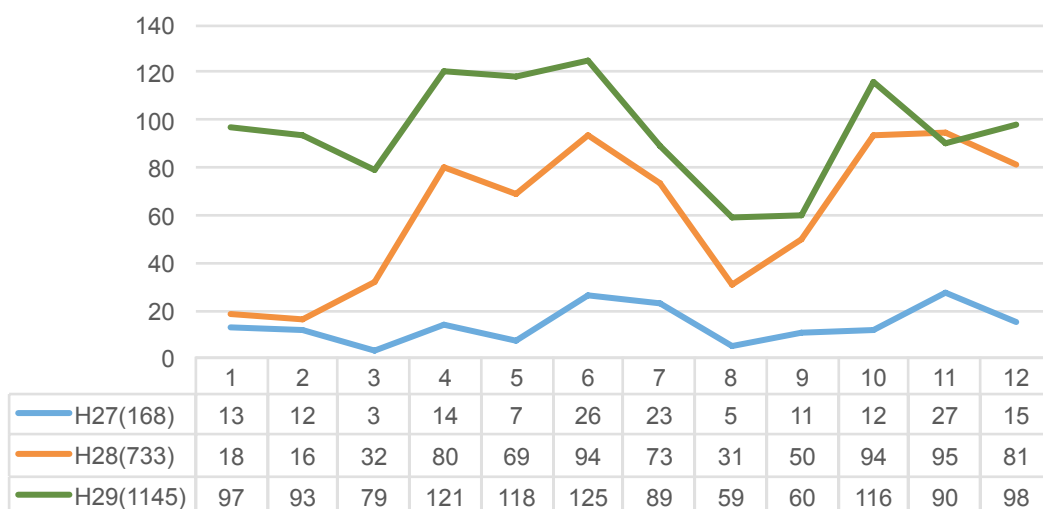
支援内容種別延べ件数 (表1)

件



障C支援(358) 障C面談(568) 障C来室(577) 支援申請書(230)

件 来談者数(面談+来室) (表2)



センターの活動について

障害学生支援センターの活動は大きく分けて4つあります (表1)。

障害学生支援：支援の要請があった学生に実施しています。具体的には、履修登録・成績確認・授業支援・移動支援・教室へのアクセス・保護者や学部・学科との連携等です。学生の特性や修学における時期に併せて実施しています。平成29年は358件 (平成28年181件) の支援を実施しました。前年比1.98倍の増加となっています。支援にあたるマンパワーの不足解消と学生支援力の向上を狙いとして今年度は学生による支援活動も実施しました。

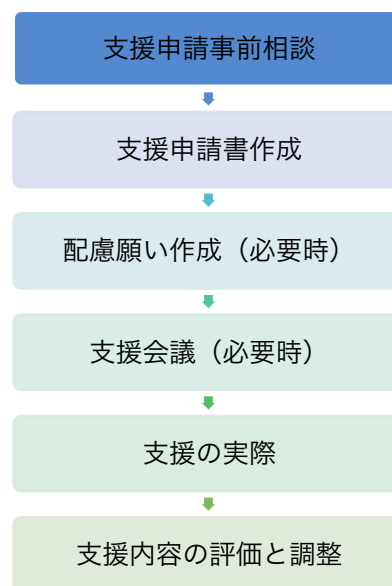
面談：面談の対象は学生・保護者・教員です。面談は定期的に行っている場合と、必要に応じて実施している場合の2つのパターンがあります。面談の中では修学、進学、自己理解、対人関係等様々な内容について話をします。平成29年は568件 (平成28年366件) の面談を実施しました。前年比1.55倍の増加となっています。

来室：大学は高校までと異なり、履修の関係で空き時間ができる事があります。その時間の過ごし方や居場所に悩む学生はすくなくありません。そのため、障害学生支援センターは会議以外の時間は部屋を開放し学生が休息や昼食、交流の場として利用できるようにしています。平成29年は577件 (平成28年361件) の来室がありました。前年比1.60倍の増加となっています。

※来談者数：来談者数は面談と来室の合計です (表2)。月ごとの増減は平成28年と大きく変わりません。年度当初から前期の間が多く、後期の初めに再度増加しています。後期は開始時の支援が整うと自ら修学を継続できることで10月以降の数が減少するよう感じています。平成29年は1145件でした。前年比1.56倍の増加となっています。

支援申請：支援申請とは障害を理由とした配慮や支援を求める際に提出する書類です。一定の手順に沿って実施します (表3)。平成29年は230件 (平成28年は109件) の提出がありました。前年2.1倍の増加となっています。

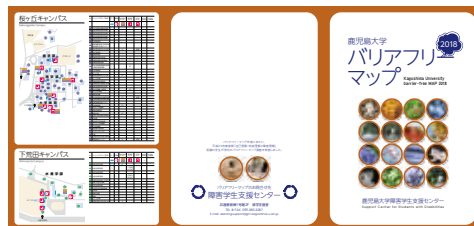
(表3)



活動報告

○支援活動

| 年月日 | 内 容 |
|--------------|-------------------------------|
| H29年3月14～16日 | 前期履修登録支援 |
| H29年3月14日 | 前期障害学生支援申請開始 |
| H29年4月1日 | バリアフリーマップ(写真1) |
| H29年9月1日 | 鹿児島大学障がい学生支援シンポジウム2017開催 |
| H29年9月6～8日 | 後期履修登録支援 |
| H29年9月7日 | 後期障害学生支援申請開始 |
| H29年9月14日 | 平成29年度パソコンノートテイク基礎研修への参加(写真2) |
| H29年11月10日 | 利用学生と共に学祭見学 |
| H29年11月～ | バリアフリーマップ調査 |



(写真1)



(写真2)

支援員・障害学生支援のための学生アルバイトについて

冬は白のジャンパー(写真)、夏は紺色のポロシャツで、障害学生支援の支援員、学生アルバイトが活動しています。障害のある学生が、障害のない学生と同じように学びを深めることが出来るように支援を行っていますのでご協力、ご理解をお願い致します。また、障害学生支援(ノートテイク・移動支援等)に興味のある学生がおりましたら、障害学生支援センターにご紹介下さい。



○支援会議・協議会

| 年 | H29 | | | | | | | | | | | | H30 | 合計 | |
|---------|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|-----|----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | | | |
| 入試事前協議会 | 5 | | | | | | | | | | | | | 7 | 12 |
| 入学事前協議会 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修学支援会議 | 1 | | | 1 | 1 | | | | 2 | | | 2 | 1 | | 8 |

入試事前協議会、入学事前協議会、修学支援会議について

鹿児島大学では、障害のある学生からの入学試験での配慮申請について入試事前協議会を行っています。これは、これまで入試課・各学部にて実施されていた配慮の決定を入試事前協議会にて実施するものです。入試事前協議会は、入試事前相談を提出した学生に対し、学部・学科の教職員及び入試課、保健管理センター、障害学生支援センター、学生生活課、共通教育センターが出席し、配慮決定について協議を行います。「障害者差別解消法」の施行により合理的配慮の提供が義務となり、配慮の提供は協議による同意形成の過程が必要となるためです。また学部による不均衡を防ぐ目的があります。平成29年度は7件の協議会を実施しました。必要な情報も集約しつつ修学に繋ぐ事のできる会議にして行きたいと考えています。また、必要に応じて入学前会議や修学支援会議を実施し、修学に対する配慮の提供やその方法について計画・実行・照合・修正を行っています。ご協力の程よろしくお願い致します。

障害のある学生からの入試事前相談が増加しています。多くの学部の先生が「入試はどうか出来るけど、修学が・・・」「修学後の進路は・・・」と話されます。修学に関しては修学環境や修学適正等のマッチング、その後の進路といった事の検討も必要です。出来る限り早い時点での相談や見学が望ましいと思います。できればオープンキャンパス等に参加していただき本人の学びたい事と、環境や内容をみでのマッチングが出来ればと考えます。是非学部のHPや広報等でもお知らせ頂きますようお願い致します。障害学生支援センターが入学希望者の相談に応じることも可能です。

○講師活動・参加学会

| 年月日 | 講習会 |
|---------------|--|
| H29年2月14日 | 平成28年度第2回教員ワークショップ 「英語のクラスにおける授業改善と教授法向上に向けて」 |
| H29年4月4日 | 平成29年度教育学部オリエンテーション(修学支援講話)(写真1) 演題「より良い学生生活のために」 |
| H29年4月6日 | 平成29年鹿児島大学新任教員SD研修会(写真2) 演題「障がいをもつ学生の支援について」 |
| H29年5月20～22日 | 日本学生相談学会第35回大会 |
| H29年5月29日 | 平成29年度第1回障害学生支援連携協議会 |
| H29年6月17日～19日 | 全国高等教育障害学生支援協議会第3回大会 |
| H29年7月11～14日 | 15 TH EUROPEAN CONGRESS OF PSYCHOLOGY ポスター発表「Therapist development through participation in intensive Dohsa-hou group therapy for children with autism spectrum disorder」(写真3) |
| H29年9月1日 | 鹿児島大学障がい学生支援シンポジウム2017の開催 |
| H29年9月14日 | 平成29年度パソコンノートテイク基礎研修 |
| H29年9月23日 | 日本学生相談学会 学生相談1DAY セミナー |
| H29年10月24日 | 平成29年度障害学生修学支援実態調査・分析合同ヒアリング |
| H29年10月25日 | 平成29年度全国障害学生支援セミナー「体制整備セミナー」 |
| H29年12月8～10日 | 2017年度日本リハビリテーション心理学会学術大会 第43回心理リハビリテーションの会全国大会 |
| H30年1月15日 | 平成29年度第8回学生生活委員会 演題「学生相談スキルアップ」 |
| H30年1月30日 | 障害者支援に関する大学間関係情報交換会 |



(写真1)



(写真2)



(写真3)

障害学生 支援員・学生アルバイト

障害のある学生の修学のサポートとして支援を行っている支援員・学生アルバイトがいます。実際の支援としては、移動支援、ノートテイク、受講のサポート（教科書を広げる、見やすい位置に移動する等）があります。白ジャンパー、紺ポロシャツで活動しています。また、障害学生支援センターでは、障害学生の立場にたち責任を持って支援を実施できる学生アルバイトを募集しています。学生自身の成長にも多様性ある共生社会の理解にも有意義な活動であると思います。興味のある学生がおりましたら是非ご紹介ください。

支援員・学生アルバイトからのお願い!!

必要があって座席の位置を決めていたり、専用の机を置いている場合があります。支援の妨げとなりますので、移動後は現状復帰をお願いします。支障やご意見等ありましたら障害学生支援センターにご連絡ください。より良い方法を検討したいと考えます。また、支援員やアルバイトは学生が学んでいる専門分野の知識はありません。支援中は支援活動に専念していますのでご協力よろしくお願いします。

支援学生募集

同じキャンパスで学び合う仲間のために、あなたの協力が大きな力になります。障害のある学生の支援に興味がある方、是非ご協力ください。現在、学生による支援では、移動支援・講義中のサポート・ノートテイク等を行っています。具体的な活動について知りたい方、参加したい方はお気軽に障害学生支援センターまで来室ください（メール・電話での問い合わせも可能です）。

支援機器 ※支援説明やお試しも出来ますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

| NO | 支援機器 | メーカー・機種・その他 |
|----|-----------------|---------------------------------------|
| 1 | 点字対応テプラ | キングジム SD6700D |
| 2 | ICレコーダー | Pannasonic RR-XS455-K |
| 3 | 車いす | マツナガ 42幅 自走タイプ |
| 4 | ロジャーペン | 補聴器を使用中的の方の受講やグループディスカッションに有用 |
| 5 | ロジャータッチスクリーンマイク | 補聴器を使用中的の方の受講やグループディスカッションに有用 |
| 6 | ロジャーフォーカス | 聴力に関係なく、大きな講義室の中で先生の声だけをよりクリアにきくことが可能 |
| 7 | ストレッチマット・ボール | 屋内外兼用 |
| 8 | 筆談ボード | Memle BR |
| 9 | テント | North Eagle キャンピーフルクローズ |
| 10 | 折りたたみベッド | F907-g1001-100 |
| 11 | ウェブカメラ | C-615 |
| 12 | 書画カメラ | エプソン ELPDC21 |
| 13 | ロジャー 線音源スピーカー | デジタルマスター7000 |
| 14 | ロジャー パスアラウンドマイク | 2台 |

編集後記

3回目のセンターニュースを発行することとなりました。センターが設置されて4年が経とうとしています。支援申請書、障害学生支援会議、入試事前相談のシステムは障害学生支援員の先生方、部局事務の方、保健管理センターのご協力のお陰でスムーズに運用できるようになってきました。まだまだ行き届かない部分や効率化が必要な部分も明確になってきましたので、来年度改善していく予定です。センターを利用していただいていた卒業生から連絡をもらうことが何度かありました、仕事の休みに訪室、メールでの相談事、性的マイノリティ啓発活動への協力依頼、障害の診断等々、卒業生が自分の場所で悩みながら活き活きと頑張っている姿に我々もエネルギーをもらいました。早い時期に学生が自らの卒業後を考えことができるような支援の重要性を感じています。（今村・堀ノ内）